

ご存じですか！文化財

「十三仏板石塔婆」

市指定有形文化財
昭和55年6月7日指定

26



問合せ
生涯学習課
(☎内線352)



所在地 不動岡973

今回紹介する文化財は、十三仏板石塔婆です。この板石塔婆は、県立不動岡高等学校のテニスコートの北約200mのところにある宝性院(現在は堂宇のみ)の入口に造立されています。板石塔婆は青石塔婆、板碑とも呼ばれる石製の供養塔で、鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに造られました。この板石塔婆は、荒川上流の長瀬付近で産出する緑泥片岩製のものです。加須地域ではこれまでに約200基の板石塔婆が確認されています。

この板石塔婆は昭和30年に近隣から出土したものを移設したもので、台上の高さ98cm、幅36cm、厚さ2cmあります。板石塔婆の多くは阿弥陀如来などを種子(仏を表す梵字)で表すものが多く、十三の仏を刻む板石塔婆は県内でも例は少なく貴重なものです。

十三仏信仰とは、亡くなった人の初七日から三十三回忌までの十三回の忌日と結びついた信仰で、初七日を司る不動明王から、三十三回忌の虚空蔵菩薩までの十三の仏が法要を司るといわれています。

この板石塔婆には室町時代中ごろの文明13(1481)年の銘があり、頂部の二条線の下に天蓋・日輪・月輪が配され、最下段の右から左へ不動明王・釈迦如来・文殊菩薩、4段目の左から右へ普賢菩薩・地藏菩薩・弥勒菩薩、3段目の右から左へ薬師如来・観音菩薩・勢至菩薩、2段目の左から右へ阿弥陀如来・阿閼如来・大日如来、1段目中央に虚空蔵菩薩の種子が刻まれています。

なお、大利根地域の旗井にある星福寺にも室町時代と考えられる十三仏を刻んだものがあり、十三仏信仰の広まりを知る上でも貴重な資料といえます。



紹介者 新井 武揚さん(志多見)